

この資料について

本資料は、ベルリン・フリードリヒスハインで2011年から2023年まで活動したアトリエ・文化スペース「SHOXXXBOXXX」の活動記録です。

2020年4月に、家賃の大幅な値上げを求められたことをきっかけに、家主および管理会社に向けて、SHOXXXBOXXXの活動内容と地域における文化的・社会的な役割を伝えるために制作しました。展示、ライブ、共同制作、地域との交流など、さまざまな活動と、それを支えた人々のつながりを記録しています。

本日本語版は、当時の資料を日本語で紹介し、ベルリンのDIYカルチャーや自主的な文化活動の実践を共有するために公開するものです。



2023年10月
アトリエSHOXXXBOXXXの
最後のイベントの様子
(ドイツ・ベルリン)

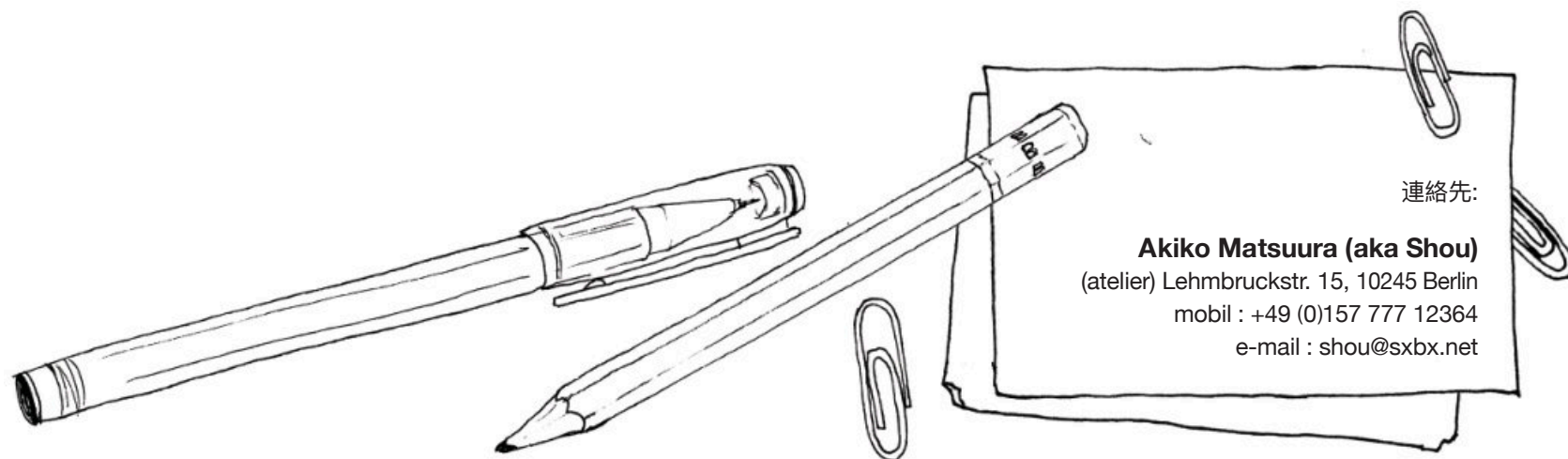
ベルリン、レームブルック通り15番地の 所有者・管理会社に向けた提案書

オリジナルのドイツ語版は2020年4月に作成

この場所には名前があります：

SHOXXXBOXXX
(ショックスボックス)

本ドキュメントの内容、およびテキストや画像は著作権により保護されており、許可なく第三者が使用することはできません。



はじめに

貴社からの通知で、私たちのアトリエの現在の家賃（光熱費別）が1㎡あたり5ユーロから15ユーロへと3倍に引き上げられる予定であることを知り、大変ショックを受けました。この値上げによって、私たちの活動が脅かされるのではないかと懸念しています。私たちは裕福ではなく、(物質的な面で) 贅沢な生活を送っているわけでもありません。全員が自営業であり、そのほとんどが非営利の芸術活動を行っているからです。現在の家賃のおかげで、私たちは自由に実験を行い、それを通じてベルリンのクリエイティブシーンにより多く貢献することができていました。このスペースは、私たちの仕事場であるだけでなく、ベルリン在住の公益に資するアーティストたちのための交流の場や活動拠点としても機能してきました。したがって、家賃値上げの影響は、私たちだけでなく、この街の芸術・文化シーンの一部にも及ぶこととなります。

ここでは、私たち自身とその活動について、詳しく紹介したいと思います。私たちがこの場所でどのような人々と出会い、どのような活動を行っているのか。そして、このアトリエの存在が、建物やそこに暮らす人々、さらには地域社会にとって、どのような豊かさをもたらしているのか。そうしたことを、より身近に、人間味をもって感じていただけるよう、私たちの姿をできるだけ具体的にお伝えできればと思います。

この書類を拝見いただくために、お時間を割いてくださったこと、そして寛大なご配慮に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

ショウこと松浦晶子（テナント代表・契約者）

1. SHOXXXBOXXXとは？

1.1. アトリエコミュニティ 4ページ

異なる分野で活動する5名がアトリエを共有し、それぞれの創作活動を通じて、互いに刺激し合いながらつながっています。

1.2. クリエイティブなアイデアを実践する場 14ページ

自由な発想をもとに、アイデアを実験し、形にしていく場です。展示会、ライブコンサートや上映会などを通じて、多彩な文化活動を展開しています。

1.3. カルチャーコレクティブ（文化活動グループ） 19ページ

SHOXXXBOXXXの活動は、多くの参加者や協力者によって支えられています。彼らはひとつのカルチャーコレクティブとして、さまざまな芸術・文化プロジェクトに共同で取り組んでいます。

2. 写真で見るBEFORE/AFTER 25ページ

3. 近隣住民の声 29ページ

4. ベルリンの声 35ページ

5. まとめ・おわりに 37ページ

前置き

2011年に賃貸契約を結んだ後、レームブルック通り15番地のこのスペースは、アーティストのSHOXXX（ショックス）ことショウが、友人たちとともに多大な労力をかけて改装し、居心地のよいアトリエ兼住居として生まれ変わりました。彼女の数多くのアート作品やグラフィックもここに持ち込まれました。その後、「SHOXXXBOXXX」と名付けられたこの場所は、多くの仲間たちの情熱的なサポートによって、フリードリヒスハイン地区のアーバンアート文化を代表する存在へと発展していきました。

SHOXXXBOXXXとは... アトリエコミュニティ

2017年末、ショウの主導のもと、居心地の良いアトリエ兼住居は、やがてシェアアトリエへと発展しました。それ以来このスペースは、デザイン、アート、科学、音楽など、多岐にわたる分野で活躍する4~5名の共同体メンバーによって利用されてきました。

こうして、この小さな空間から斬新で独創的なアイデアが生まれ、メンバー同士が刺激し合い、協力しながら、活気ある活動を外へと広げてきました。SHOXXXBOXXXは、興味を持った人や通りすがりの人が制作風景を覗き、クリエイティブなベルリンの一端に触れられるよう、いつでも開かれた場所であり続けてきました。

私たちは共にいることで、創造性やインスピレーションを高め、より多くのものを生み出しています。ここは、人と人がつながり、刺激し合う活気あるネットワークなのです。

現在のメンバー:

松浦晶子（ショウ）、ヴァンサン・ルー、ミオ・ハンナ・チブルカ、ヨハネス・マルクス、西村温子



(c) AIH Photography

テナント代表者 (2011-):

松浦 晶子 (ショウ)

2011年4月、アトリエSHOXXXBOXXXとの賃貸借契約を締結。

このスペースでの活動内容は以下の通り:

1. SHOXXXBOXXXの設立者
2. アーティスト/パフォーマー (SHOXXXとして)
3. ミュージシャン (Puppe'n Muckeとして)
4. グラフィック・WEBデザイナー (Shoctopus Graphicsとして)

日本・広島生まれ。日本では京都で学び、その後大阪および東京でグラフィックデザイナーとして勤務。2005年よりベルリンに在住し、フリーランスとして活動している。

2019年5月、男児を出産。



インタビュー - GRAZIA Magazine 2013



インタビュー - berlin art parasites

1. SHOXXXBOXXXの設立者

2011年、彼女は自身のアトリエ名であり、イベントの企画・開催を行うレーベル名でもある

「SHOXXXBOXXX」を立ち上げた。

アトリエ SHOXXXBOXXX では、展覧会やライブコンサートなどを不定期に開催。

レーベル SHOXXXBOXXX は、ベルリンのオルタナティブ・カルチャーシーンにおいて、独創的で、しばしば日本に着想を得た文化イベントを企画してきた。また、チームとしてフェスティバルやクリスマスマーケットにも参加している。

SHOXXXBOXXXの活動は、これまで多くの仲間たちの協力と支えによって成り立ってきた。彼らとの共同作業があってこそ、SHOXXXBOXXXはベルリンのオルタナティブ・カルチャーシーンで存在感を発揮してきた。(詳しくは: 19-24ページ参照)



(c) Vincent Roux

2.1. ビジュアルアーティスト (SHOXXXとして)

彼女の展示では、色鮮やかな布製オブジェやシルクスクリーン、手作りのデコレーション、不思議なコレクションから選ばれた造形が組み合わさり、SHOXXXならではのポップな世界が広がります。ヨーロッパではしばしば日本的と評されるその空間は、皮肉の効いたユーモアや突拍子もないナンセンスによって、予測不能な世界へと展開します。彼女のインスタレーションは、訪れる人々をSHOXXX独自の世界へと誘い、日常を離れて想像力を自由に広げる体験をもたらします。

詳しくは : <http://www.shoxxxboxxx.com/shoxxx>

主な展示会場 (抜粋) : Gallery Neurotitan (Berlin), SomoS (Berlin), ZWITSCHER MASCHINE (Berlin), WAH Center (NY, USA), Galerija Boombarstick (Vodnjan, HR), excube (Osaka, JP) 、他

参加イベント (抜粋) : Berlin Festival, Berlin Graphic Days, Pictoplasma, Lange Nacht der Bilder, 48 Stunde Neukölln、他

EUアーティスト交流プロジェクト: Words Breaking Walls (Wrocław, PL), La Louche d'Or (Lille, FR) 、他



(c) SHOXXX



(c) Marco Krojac

SHOXXX

2.2. ライブ映像パフォーマー (SHOXXXとして)



(c) gape experimental lounge

2009年以来、彼女は自ら考案したライブ・アニメーション・パフォーマンスを披露しており、大きな注目を集めている。

出演歴 (抜粋) : (in Berlin) Urbanspree, Madame Claude, Eschloraque, Mensch Meier, Plateau Gallery Greenhouse, Knochenbox, Tiefgrund in Kino Zukunft, Lomography Shop, BRUNNEN70, vetomat, WAH Center (NY, USA), Gallery Praksa (Pula, HR), Restaurant Belvedur (Koper, SL), DOT CAFE (Okayama, JP) 、他

詳しくは : http://www.shoxxxboxxx.com/shoxxx/works/live_animation.html

3. ミュージシャン・パフォーマー (Puppe'n Muckeとして)

ストリートフェスティバル「Suppe und Mucke」のために考案したアートパフォーマンスから、音楽プロジェクト「Puppe'n Mucke」が誕生しました。

友人のミュージシャンやアーティストたちと、彼女が自らデザインしたユニークで風変わりな衣装をまとい、さまざまな楽器を駆使して繰り広げるのは、エネルギッシュなエレクトロ・トラッシュ・ロックのパフォーマンス。それ以来、定期的に公演を重ね、現在ではヨーロッパ各地で活動しています。

詳しくは：

<http://www.puppenmucke.de>

出演歴（抜粋）：(in Berlin) Urbanspree, Südblock, West Germany, Ballhaus Berlin, Fahimi Bar, Antje Øklesund, Neurotitan, Eschloraque, Hangar49, Loophole, Barbiche, ZKU, Kalkscheune, Brandenburger Tor, Gallery Praksa (Pula, HR)、他

参加イベント（抜粋）：Bauhausfest 2017 (Dessau), Golden City Bremen (Bremen), Ca.Co.Fest 2018 (Bari, IT), Tropicana Dreams (Mallorca, ES), Art Kamp Empeduja 2016 (Rijeka, HR)、他



4. グラフィック・WEBデザイナー (Shoctopus Graphicsとして)

日本では、大阪の広告会社や東京のデザイン事務所でグラフィックデザイナー / イラストレーターとして働いていました。そこで、広告デザイン、広告イラスト、エディトリアルデザイン、そしてマーケティングの知識を身につけました。2005年からはベルリンでフリーランスとして活動しています。ここでは、その活動分野がWEBデザインにも広がりました。

クライアント（抜粋）：Japanisch-Deutsches Zentrum Berlin (公益法人), Strassenbühne Neukölln (ノイケルン地区のプロジェクト), GLS Sprachenzentrum (語学学校), GLS Campus Berlin (イベントロケーション), レストラン Oderberger, Rixbox (カフェ), MenMen (レストラン), Lena Braun (アーティスト), Mademoiselle Opossum (ショップ)、他



(c) chuue



(c) Vincent Roux



Friedrichshain kocht 2013

232-235ページ

SHOXXXBOXXX インタビュー



JAPANISCHE NONSENSE-KUNST SHOXXXBOXXX

Die japanische Mix-Media-Künstlerin Shou lebt seit 2005 in Berlin. Kunst, Musik und Essen gehören für sie zusammen. Ihre Kostümpartys, Musikvideo-Abende oder Ausstellungen bieten nicht nur was für Augen, Ohren und Lachmuskeln, sondern oft auch was für den Bauch – zum Beispiel eine japanische Tapas-Bar.

Wie bist du nach Berlin gekommen?

Shou: Ich habe in Tokio als Grafikdesignerin gearbeitet. Manchmal bin ich eine Woche lang nur in der Firma geblieben, hab auch dort geschlafen, das war mir auf Dauer einfach zu stressig. Damals wollte ich mehr Kreatives machen und einfach die Welt angucken. Ich bin dann alleine durch Europa gereist. London, Paris, Brüssel, Wien. Berlin hat mir damals sehr gut gefallen. 2003 war hier alles voller kaputter Gebäude und Straßenkultur. 2005 bin ich hierher gezogen. Ich bin oft umgezogen, aber fast

immer in Friedrichshain. Friedrichshain gefällt mir. Viele lokale Berliner, aber auch Ausländer. Viele meiner Freunde wohnen in Friedrichshain und ich fand's hier gemütlich. Jetzt verändert sich dieses Gebiet sehr, trotzdem bleibe ich.

Und wie kam es, dass du das Atelier hier gegründet hast?

Shou: Ich habe immer im eigenen Zimmer gearbeitet ohne extra Arbeitszimmer. Also arbeiten, schlafen, alles in einem Zimmer. Dann wollte ich das ein bisschen trennen.



Vor vier Jahren hatte ich zusammen mit drei Freundinnen in der Landsberger Allee in einer großen ehemaligen Papierfabrik ein Studio. Da haben wir immer so komische Veranstaltungen gemacht. Zum Beispiel Malen an die Wand, alle zusammen, auch Kinder. Einmal haben wir eine Noodle-Slider gemacht. Das ist ein japanisches Essen. Mit einem in Hälften geschnittenen Bambusrohr mit Wasser. Wie ein kleiner Fluss. Dort kommen Nudeln rein und

schwimmen im Wasser. Die isst man dann mit Stäbchen und Dip-Sauce. Wir haben das damals mit Teppichrohren statt Bambus gemacht. Ich finde, sowas ist auch ein Kunstprojekt, nicht so akademisch, ein bisschen verrückt. Solche Sachen wollte ich weitermachen, aber dieses Studio mussten wir wegen Umbaus verlassen. Als wir das Studio verloren, wollte ich selber ein Atelier mieten, um meine Veranstaltungen weiterzumachen. Und hier bin ich nun.

Was inspiriert dich? Woher bekommst du deine Ideen, zum Beispiel für die Noodle-Slide oder deine Kostüme?

Shou: Diese Noodle-Slider ist eigentlich ein traditionell japanisches Ding. Aber viele Leute kennen das hier nicht, dabei ist das toll. Mir ging es dabei darum, Essen mit Entertainment zu machen. Meine Kunst ist nicht absichtlich japanisch gemacht, aber viele Leute finden meine Sachen sehr japanisch. Der Charakter, die bunte Farbe. Und die Kostüme... Vor sieben Jahren habe ich meine Geburtstagsparty zusammen mit einer Halloween-Party gefeiert. Ich habe allen gesagt, dass sie bitte im Kostüm kommen sollen. Das hieß, ich als Geburtstagskind musste selber ein besonderes Kostüm tragen. Also hab ich eins genäht. Am Anfang war es so ein kleiner Octopus, eigentlich ein „Octopig“, oben Schweinchen, unten Octopus... Und im Jahr darauf, dachte ich, das war zu einfach, so ist das immer größer geworden. Jetzt mache ich jedes Jahr eine neue Puppe.

Auf deiner Website steht, dass dir Nonsense sehr wichtig ist. Was ist so reizvoll daran?

Shou: Ich versuche, meine Sachen nicht kompliziert zu machen, sondern einfach Nonsense. Ich möchte mit meinen Sachen nicht stylish oder cool sein, sondern eher

freundlich oder unvollkommen. Ich mag einen Stil, bei dem etwas fehlt oder etwas komisch ist. Damit die Leute mehr Nähe finden. Bei der meisten zeitgenössischen Kunst fühle mich weit weg, es gibt großartige Sachen, aber vieles ist so.... Ich kann das leider manchmal nicht verstehen

Würdest du sagen, dass es große Unterschiede gibt zwischen der Kunstszene in Berlin und in Tokio?

Shou: Ja, ich denke, sehr große. In Japan, in Tokio, gibt es vor allem den Mainstream. Es gibt eine große Mauer zwischen den Profis und Amateur- oder Underground-Sachen. Nur ganz wenige bekannte Künstler sind in Tokio tätig, andere Leute können nicht mit Kunst überleben. Viele Leute schauen auch mehr darauf, wer jemand ist: Wo hat er studiert, welche Preise hat er bekommen? In Berlin sind überall Künstler. Alle können einfach was machen. Hier ist es viel freier.

SHOXXXXBOXXX

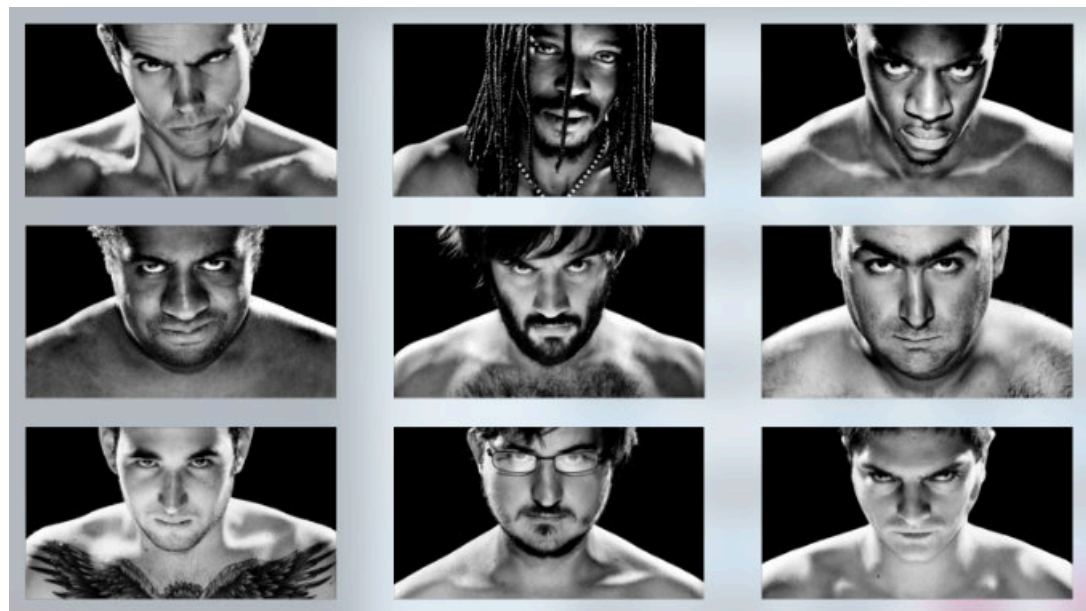
→ www.shoxxxxboxxx.com
Lehmbruckstraße 15
10245 Berlin
info@shoxxxxboxxx.com

アトリエメンバー (2017-):

Vincent Roux (ヴァンサン・ルー)

ヴァンサン・ルーは写真家であり、SHOXXXBOXXXのアトリエでワークスペースを共有しています。彼にとってこの場所は、何よりもまず芸術的な表現ができる場であり、モデルやアーティストを招いて個人的なプロジェクトを実現するためのワークショップであると同時に、ポートレート撮影を専門とする彼の写真スタジオでもあります。

彼は2019年3月、SHOXXXBOXXXにて写真シリーズ『飼い主のそっくりさん!』を展示しました。



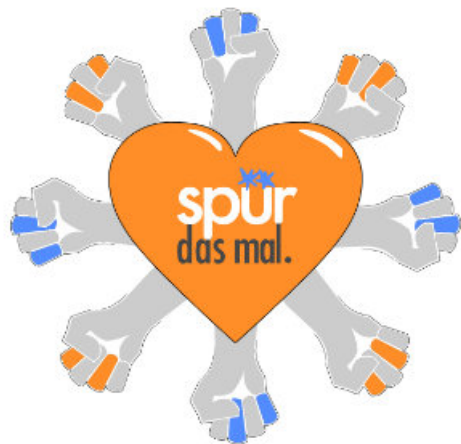
アトリエメンバー (2018-):

Mio Hannah Cibulka (ミオ・ハンナ・チブルカ)

ミオは、執筆、パフォーマンス、音楽制作、即興演奏、研究など、幅広い分野で活動しています。ブログ「spürdasmal」 (<http://spurdasmal.de>) では、詩や物語、音楽、パフォーマンス作品を発表しています。これらの作品は、人々に力を与え、抑圧された感情を解き放ち、心の奥深くに潜むものに光を当てることを目指しています。ピアノとフルートも、ミオの表現を支える大切な楽器です。

また、スウェーデンのルンド大学では、コミュニケーションの多様性について研究しています。主に聴者で構成され、音声言語が中心となっている社会で、聴覚障害のある人々が日常生活の中でどのようなコミュニケーションの方法や工夫を用いているのかを調査しています。

誰もが自分に最も適した方法でコミュニケーションをとれること、そしてそれが当然のことであること。ミオは、そんな多様なコミュニケーションのあり方を大切にしています。



(c) Vincent Roux



アトリエメンバー (2019-):

Johannes Marx (ヨハネス・マルクス)

ヨハネス・マルクスは、「Midi-Rod」や「Off The Grid Sequencer」など、独自の楽器を開発しています。オープンソースとDIYへの情熱を原動力に、電子音楽とアコースティック音楽の可能性を広げるとともに、電子音楽の演奏方法そのものにも新たな変化をもたらしています。

彼の独創的な楽器と、独自の操作・演奏方法は、Micha Acher (The Notwist)、Max Punktezahl、Jim Avignonといったアーティストからも高く評価され、楽器製作者として制作を依頼されています。マルチインストゥルメンタリストでありシンガーでもあるヨハネスは、エレクトロポップバンド「Pitchtuner」のメンバーとして、20年以上にわ

たりツアー活動をしてきました。ヨーロッパ、アジア、アメリカで600回以上のライブを行い、Doxa Records、Motor Music、日本のBiny Records、中国のFake Music Mediaから計4枚のアルバムをリリースしています。3作目のアルバム『Riding The Fire』は、BeatsteaksやTocotronicなどを手がけたMoses Schneiderがプロデュース。4作目は、The Whitest Boy AliveやErlend Øyeなどを手がけたNorman Nitzscheがレコーディングとミキシングを担当しました。

また、PC Nackt & Cherie (String Theory、Warren Suicide)、Niek Meul & Bent van Looy (Das Pop)、Friedrich Greiling (Mittekill)、Yaneq、Joel Gibb (The Hidden Cameras) など、さまざまなアーティストとの楽曲制作や共演も行っています。

Collection of some instruments build by Johannes Marx



心理学および人間と機械のインタラクションを専門的に学んだ経歴を持ち、長年にわたり、ポツダム大学のHasso-Plattner-Institut School of Design Thinkingで教員を務めてきました。同校はスタンフォード大学のd.schoolから派生した教育機関です。そこで彼は、イノベーションや既成概念にとられない発想を生み出すための中核的な手法として、プロトタイピング（試作品の制作と検証）に重点を置いています。

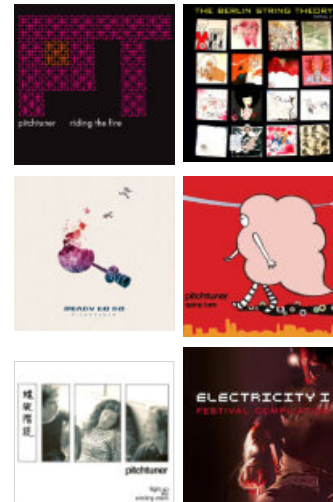
<https://www.discogs.com/artist/782346-Johannes-Marx>

Pitchtuner „Ready To Go“ Video:

<https://youtube.com/watch?v=PSv3BPAMMcU>

Pitchtuner Website: <https://www.pitchtuner.net>

<http://johannesmarx.com>



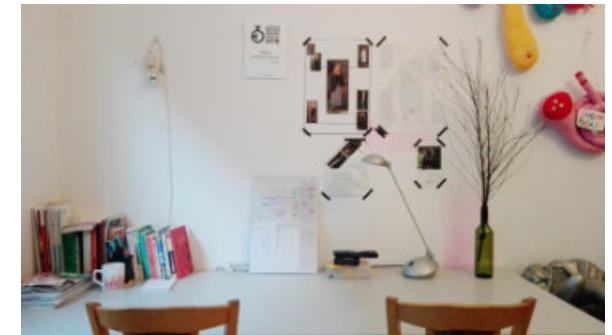


アトリエメンバー (2019-)
(ショウの出産・育児休暇中に):

西村 温子

日本語・ドイツ語・英語の翻訳者・通訳者

2019年より、フリーランスの日本語・ドイツ語・英語の翻訳者および通訳者として活動している。SHOXXXBOXXXを不定期に仕事場・ネットワーキングの場として使っている。



翻訳者・通訳者

翻訳者として、日本やドイツの企業向けに様々な分野で活動しています。これまでのプロジェクトには、日本での居住のためにアーティストビザが必要なアーティストの申請書類の翻訳、グラフィックデザイン事務所の業務に必要な文書の翻訳、オンラインツールのプロモーション用PR動画の台本翻訳などが含まれます。また、持続可能な社会の実現を目指すコンサルティング・建築会社「ASOBU GmbH」のために、資料の調査および翻訳も行っています。

パートナー

aizawa office Inc. (JP), ASOBU GmbH (DE), Kato Life Event GmbH (DE), Tenzan GmbH (DE), Momento Film (SE), Mesanic GmbH (DE), CHI&CO. (DE), TI-CRO GmbH (DE), GAMERA GmbH (DE)、他

SHOXXXBOXXXとは...

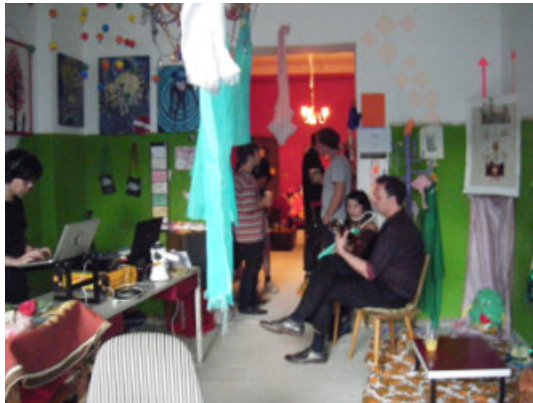
クリエイティブなアイデアを実践する場

私たちは2011年から、フリードリヒスハインの活気あるインディペンデントなアートシーンの一翼を担ってきました。現代アートのアカデミックな厳粛さや、商業主義的なメインストリームの流行から離れたSHOXXXBOXXXでは、アーバンカルチャーやクリエイティブシーンの多彩な表現を取り入れながら、作品やアイデアが生まれています。ストリートアート、イラストレーション、写真に加え、パフォーマンスや音楽など、さまざまな表現が互いに刺激し合い、ときには融合してひとつの大きな作品へと発展します。

ここで活動するアーティストたちは、互いに刺激やインスピレーションを与え合い、意欲的に協力しながら、自分の専門分野や視野を超えた新たな発見を重ねています。

こうした創造的な交流から、SHOXXXBOXXXでは小さなイベントも生まれてきました。展示会や上映会、ライブコンサート、ディナーパーティーなどを通じて、誰もが集い、交流を楽しめる開かれた空間をつくっています。私たちにとって、すでに答えを知っている人よりも、好奇心を持ち、驚きや発見を楽しむ人のほうが、いつだって大歓迎なのです。

独創的なコンセプトのイベント



SHOXXXBOXXXオープニングイベント時のグループ展, 2011



„Shooooow your short animation“
ショートアニメーションフェスティバル。世界各地からの50組以上のアーティストの作品を上映した 2011



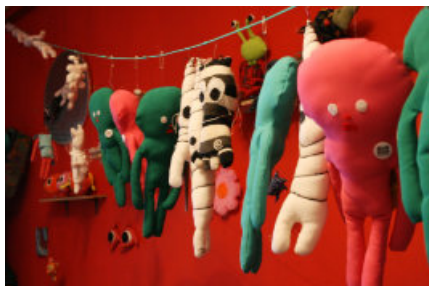
„Paint it sneezy“ ライブウォールペインティング&スクリーンプリンティング 2013



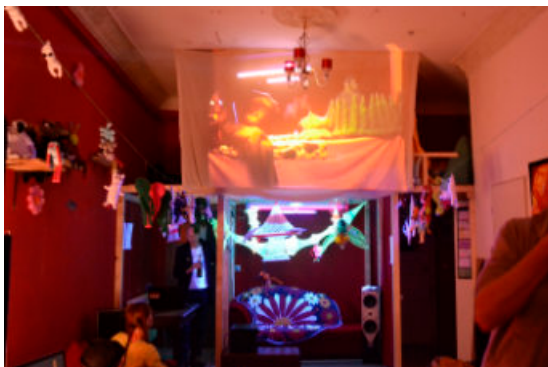
SHOXXXBOXXX 一周年イベント
張ったばかりの床板のお披露目も兼ねて。靴を抜いて折り紙スリッパを履こう! 2012



アートとはフレームに入った絵画のことだけではない!



„11:45 Wunderbahn Unterwegs“
Antje ZiesenitzとSHOXXX二人展
インスタレーション、
各々のフィギュアを使って撮影した
パペットショーの上映
2012

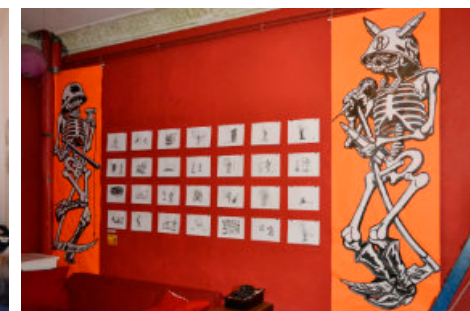


„Come and Sea Eat“
DAEYEWORLDによる展示, 2011



Fukuによるフードアート, 2011

コミックアーティストAndy Leuenbergerによる
アート、プリント、アニメーション映像
2015



Comic Invasion Berlinの一環として - 展示会 Berlin Suomix Comic, キュレーター: Christion Jütte, 2016



文化・食に関するイベント



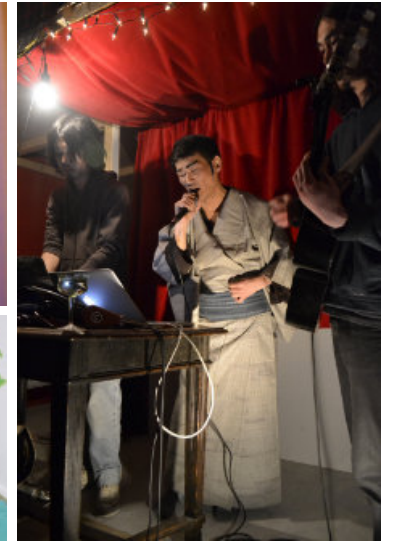
„Kimchi Natto“ 韓国と日本の食をテーマにしたイベントシリーズで、毎回食べ物に関するエンターテインメントが盛り込まれていた。
2015, 2016, 2017



(c) Oliver



(c) Oliver



Mobil IZAKAYA - 居酒屋イベント
Kure salzig Daisukeによる演歌ステージも 2015



箸使い選手権



Marco BrosoloとGenseiichiによるコンサートでは、ライブ手打ちうどんが登場 2019

みんなで長〜い
寿司を巻く



(c) Satoshi Fujiwara



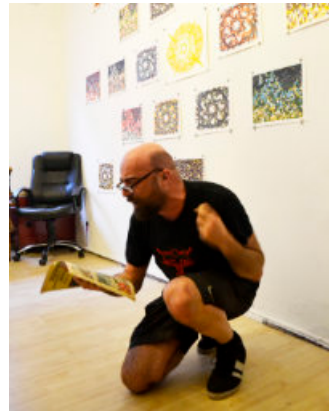
(c) Satoshi Fujiwara

みんなで餃子を作る 2013

あらゆるジャンルのライブ音楽とパフォーマンス



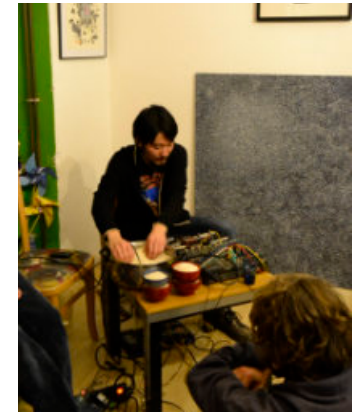
„Shipwreck Rats“ アイルランドとスコットランドの
海賊スピードフォークバンド



Matt Pogoによるライブコミック
リーディングパフォーマンス



„Krach der Roboter“ feat. SHOXXX



Kuriharaによる、お米で奏でる
実験音楽



„Mødi“ エレクトロニック&アン
ビエントなライブ音楽と、
VJ chuuuによるライブアナロ
グ映像パフォーマンス



„The Wonder Melodicans“ フリースタイル鍵盤ハーモニカ



Marco BrosoloとJohannes Marxによるバンド

SHOXXXBOXXXとは...

カルチャーコレクティブ（文化活動グループ）

SHOXXXBOXXXの活動は、多くの参加者や協力者によって支えられています。彼らにとって、暮らしの空間を創造的に彩ることは、単なる自己表現にとどまらず、人と人とのつながりを育む大切な営みでもあります。仲間たちはひとつのカルチャーコレクティブとして、アトリエの内外でさまざまな芸術・文化プロジェクトに共同で取り組んでいます。そこでは収益性といった観点から離れて、今この瞬間に創造することそのものの、かけがえのない喜びが大切にされています。

ショウはプロジェクトリーダーを務めることも多いですが、協力者に一方的な進め方を押し付けることはありません。方向性を示しながらも、自由なアイデアや提案を受け入れる余地を十分に残しています。そのため、アーティストも大工も、秘書も、誰でも、年齢や属性にかかわらず、それぞれの意思で主体的に創作に参加することができます。これが、SHOXXXBOXXXのカルチャーコレクティブのあり方です。

こうした活動を通じて、アトリエは作品やアイデアを発表する場であると同時に、人々が出会い、交流し、新たなつながりを生み出すプラットフォームとしての役割も果たしています。

支援者、参加アーティストの一部

ここでは、SHOXXXBOXXXのさまざまな活動において、日頃から協力・サポートしているメンバーをご紹介します。このほかにも、メーリングリストやFacebook、そして実際の交流を通じて、多くの仲間たちとつながっています。



(IT開発者)



(自転車店オーナー)



(アーティスト・ダンサー)



(ミュージシャン)



(アーティスト・イラストレーター)



(ミュージシャン)



(アーティスト・ギャラリーオーナー)



(アーティスト・ミュージシャン)



(アーティスト・DJ)



(ミュージシャン・社会福祉士)



(アーティスト・ギャラリーオーナー)



(ミュージシャン)



(アーティスト・イラストレーター)



(ミュージシャン)



(ミュージシャン)



(アーティスト・ミュージシャン)



(ミュージシャン)



(アーティスト・ミュージシャン)



(アーティスト・イラストレーター)



(アーティスト・ミュージシャン)



SHOXXXBOXXXのアトリエ外での活動

SHOXXXBOXXXは、普段の活動拠点を離れ、仲間とのつながりや共同体精神を大切に
するフェスティバルにもたびたび参加しています。たとえば、「Camp Tippy」や
「Serendubity」などのイベントでも活動しています。

Kulturcamp - Camp Tippy

サービスカウンターとキッチンを備えたブース、映画や音楽用のステージ、デコレーションーすべて木材と布を使ってゼロから自分たちで手作りした。SHOXXXBOXXXとして、約20人のチームで、時には大変だったが、美しく特別な時間を共に過ごした。

2014, 2015, 2016



Serendubity Festival

日本から来た庭師の友人の指導のもと
自然の素材を使ってこのブースを建てた
2015



ストリートフェスティバルや文化イベント

長年の活動を通じて、多くの支援者や協力者の輪が広がり、SHOXXXBOXXXは今や、フリードリヒスハインの住民参加型の地域文化を支える重要な存在となっています。

毎年開催されるフリードリヒスハイン地区のイベント „Suppe&Mucke“

SHOXXXBOXXXは、いつも色鮮やかなステージデコレーションと日本のスー
プ屋台で参加。2013年に、このフェスティバルがアトリエのあるルドルフ地
区で開催された際、私たちは「リビングルームステージ」を受け持ち、同時
にアトリエフェスティバル（OpenAtelier）を企画した。仲間たちの協力がな
ければ、これらの企画を実現することはできなかった。

**SUPPE &
MUCKE**
support your kiez



(c) Suppe und Mucke

(c) Suppe und Mucke



このイベントで、我々が
„Puppe'n Mucke“ は度々
演奏した



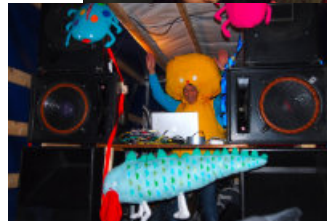
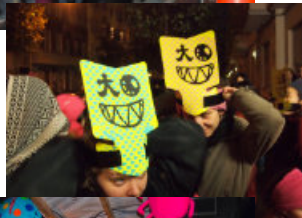
1.3. カルチャーコレクティブ

**JAPARADE**

アトリエSHOXXXBOXXXとギャラリー
Serigrafieur、それぞれで行われる2つ
のグループ展をJapadeという名のパ
レードで繋げるアートイベント

2012

<http://japade.de>



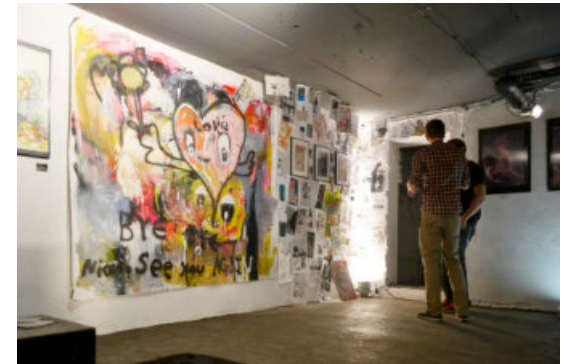
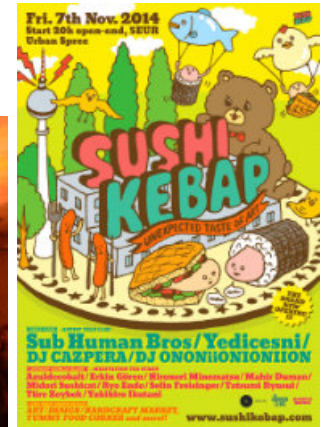
(c) 写真上と右の3枚 - iheartberlin

**„SUSHI KEBAP“ (寿司ケバブ)**

SHOXXXBOXXX と Creative Clinic の共同企画。
ベルリン在住の日本人とトルコ人アーティスト
によるグループ展とライブ音楽イベント。

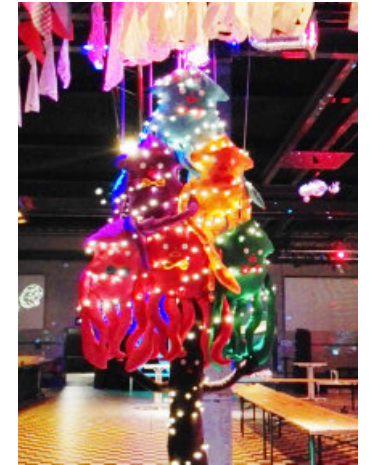
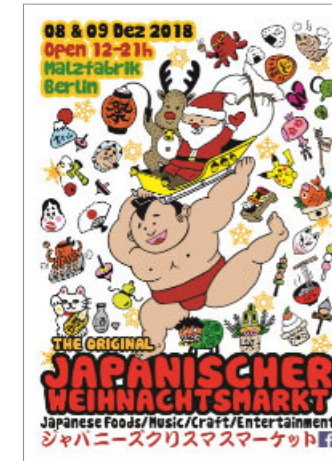
2014 Berlin Urbanspreeにて

<http://www.sushikebap.com>





„JAPON DE FLOOR“
SHOXXXBOXXX企画の
アート、音楽、日本の文化を
融合させたイベントシリーズ
in ZMF ehemalige Möbelfabrik
in Berlin-Mitte
2011–2012
<http://www.shoxxxboxxx.com/japondelfloor>



Japanese Weihnachtsmarkt

企画: Samurai Spoon
SHOXXXBOXXXは毎年会場
のメインアートを担当した。
会場: Urbanspree (2015)
Arena Berlin (2016, 2017)
Malzfabrik (2018)



それは未改修の物件から始まった 写真で見る**BEFORE/AFTER**

「何もなかった空間を、彩り豊かに」

レームブルック通りに入居した当初、室内は改修されておらず、荒れた状態でした。
私たちは愛情とたくさんの労力を注ぎ込み、サイドストリートの洗濯機修理店の無機
質で実用一辺倒な空間を、居心地のよい、温かみのある場所へと変えていきました。

前のテナント - 洗濯機修理店



前の借主は、ここを洗濯機の修理場として使っていた。奥の部屋の壁には、たくさんの蛇口が取り付けられていた。

2011年5月に引っ越してきた当時...



ショウがここに引っ越してきた時部屋はすっかり荒れ果て無秩序な状態だった。床はまだ濡れていて壁の至る所に穴が開いていた。

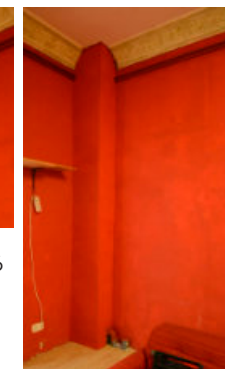
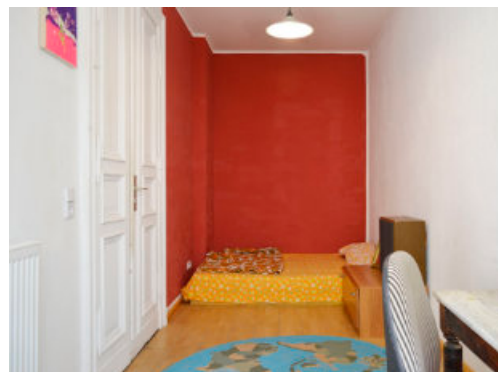




プロではありませんが、仕事ぶりは素晴らしい!



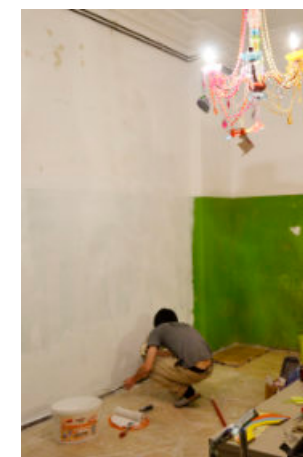
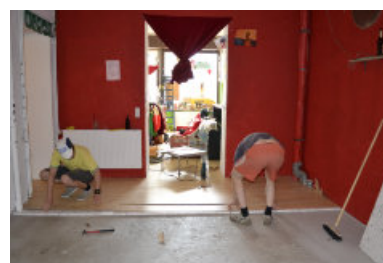
部屋の隅々まで愛情を込めて塗装。



天井の穴から出ている排水管を隠すために、壁柱を設置した。



灰色のコンクリートの床も悪くはなかったが、やはり木製の床には敵わない!
地階からの冷気を防ぐため、発泡スチロールの板を間に敷いた。



緑の色も気に入っていたが、ギャラリーの壁としては白の方が映える。



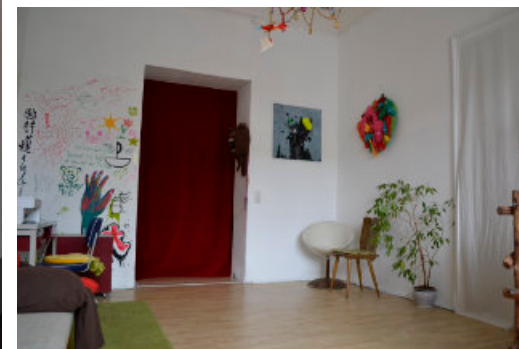
(c) Masumi Shishido Photography



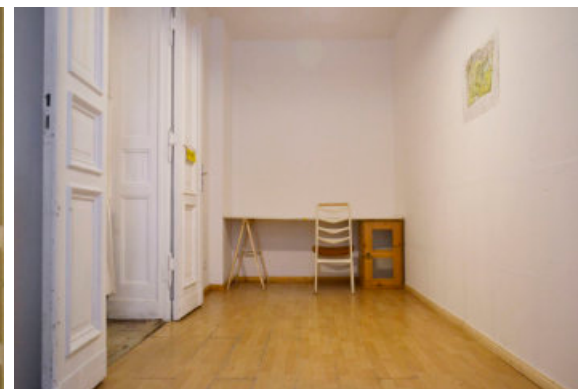
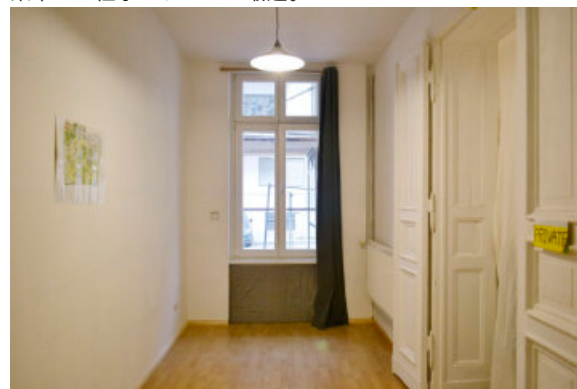
2018年、写真スタジオとして使うため、赤色の壁を白く塗り替えた。



ショーウィンドウのあるアトリエの部屋は、以前よりすっきりとした印象になった。



今では、この小さな部屋は、集中して仕事するのに最適。



近隣住民の声

近所の人々は何と言っているのか？

「私たちは、この地域に深く根ざしています。」

SHOXXXBOXXXがレームブルック通りにオープンして以来、これまで多くの地域の方々（同じ建物に住む方々も含め）が私たちのイベントを体験してくださり、たくさんの好意的な感想をいただいています。

” SHOXXXBOXXXは、長年にわたりベルリンの街に根ざし、地域に広く親しまれる文化拠点となってきました。地域の中心に位置するこの場所は、文化的な暮らしを育み、良好な近隣関係を保つうえでも大切な役割を果たしています。

また、子どもから大人まで、世代を超えて誰もが気軽に集い、交流できる貴重な場所でもあります。

SHOXXXBOXXXは、親しみやすく居心地のよい空間として、地域の人々のつながりを育み、互いの距離を縮めてきました。音楽、朗読、造形芸術、ビジュアルアートなど、質の高い文化イベントが開催されるたびに、地域の常連客だけでなく、ベルリン市内のさまざまな人々がここに集います。

年月を重ねるなかで、SHOXXXBOXXXは地域の暮らしに欠かせない、大切な存在となりました。

もしこの場所がなくなれば、多くの人が悲しむことでしょう。そして、一部の人々にとっては、単なる場所の喪失では済まないほど大きな打撃となるはずです。SHOXXXBOXXXは、まさにこの地域の魂の一部ともいえる存在なのです。

■■■■■■■■■■ & ■■■■■■■■■■

(レームブルック通り15番地の住人)

“

"

自己紹介: 1975年の生まれで、生まれてからずっとベルリンに住んでおり、2001年からはレームブルック通り15番地に住んでいます。ソフトウェア開発者で、3人の子供がいます。

ショウー 私の大好きな隣人

2011年にSHOXXXBOXXXが設立されて以来、私はショウの店に多くの時間を過ごし、そこで数多くの個性豊かな人々と出会いました。最初は改装の手伝いをし、

食事をしたり料理をしたりする中で日本料理に触れ、パーティーやコンサート、ライブパフォーマンス、絵画やアートも楽しみました。ほぼすべてのイベントに子供たちも参加しています。私の子供たちも、ショウさんのところで工作や裁縫を楽しみました。仕事でもプライベートでも、ショウは細部にまで愛情を込めた気配りを欠かしません。

ショウは、私たちの家にとっても、レームブルック通りにとっても、そしてこの地域全体にとっても、かけがえのない存在です。

© 2006 The Authors

(レームブルック通り15番地の住人)

“

"

私にとってSHOXXXBOXXXは、フリードリヒスハイ
ン地区にとどまらず、ベルリン各地の多くの人々に
とっても、なくてはならない場所です。ベルリンら
しい文化の風景を形づくる、創造的で活気ある芸術
活動が数多く生まれる場だからです。

もしSHOXXXBOXXXが失われれば、私たちみんなにとって、ほかでは埋め合わせることのできない大きな損失となるでしょう。

社会福祉士・ミュージシャン
(ベルリン・フリードリヒスハイン地区の住人)

“

Lehmbruckstr. 15
10245 Berlin

Kontakt:

Lehmbruckstr. 15, 10245 Berlin

RAUMGOLD Hausverwaltung & Immobilien
Marienburger Straße 1
10405 Berlin

25.03.2020

Mieterhöhung für Gewerbe „ShoxxxBoxx“, Lehmbruckstr. 15

Sehr geehrte Damen und Herren,

kürzlich haben wir von unserer Nachbarin und Freundin Akiko Matsuura mit bedauern erfahren, daß Sie die Miete der Gewerbeinheit deutlich erhöht haben. Wir bitten Sie dies aus folgenden Gründen noch einmal zu überdenken:

Eine Mietsteigerung von 200% der bisherigen Miete mag zwar dem aktuell rasant steigendem Mietspiegel für Gewerbe in Berlin geschuldet sein, erscheint jedoch besonders jetzt, vor dem Hintergrund der aktuellen wirtschaftlichen Krise durch den Coronavirus, besonders für Künstler und Selbstständige unsolidarisch und nicht zeitgemäß. Kulturschaffenden und Selbstständigen fällt es oft schon im Regelbetrieb schwer Rücklagen zu bilden und vielen droht derzeit die (Privat-)Insolvenz.

Der Kiez, in dem sich dieses Gewerbe befindet ist faktisch kein besonders lukrativer Ort. Es gibt kaum und hauptsächlich zur Mittagsstunde etwas Laufpublikum und keine wirkliche Ladenzeile für die sich ein Bummel lohnen würde. Wir wohnen seit gut zehn Jahren hier im Haus und die meisten Geschäfte und Restaurants in der Straße haben nicht viel länger als zwei Jahre überlebt. Viele davon haben wir ebenfalls persönlich kennengelernt, da die Straße in der Regel nur durch Anwohner frequentiert ist.

Das Künstlerkollektiv „ShoxxxBoxx“ ist eine wertvolle kulturelle Bereicherung für den Kiez. Regelmäßig stattfindende Nachbarschafts-Events mit kleinen Konzerten und Ausstellungen bieten immer wieder einen Ort um Nachbarn zu treffen, neu kennenzulernen und den Kiez zu beleben. Es wäre ein großer Verlust für uns alle, wenn dieses Gewerbe schließen müsste und von einem Leerstand profitiert auch niemand.

Respektive dessen und der derzeitigen wirtschaftlichen Krise bitten wir Sie, ihre Mieterhöhung noch einmal zu überdenken. Vielen Dank.

mit freundlichen Grüßen,

&

SHOXXXXBOXXX (レームブルック通り15番地) の事業用賃料値上げについて

拝啓

先日、近隣に住む友人のAkiko Matsuuraさんから、SHOXXXXBOXXXの事業用賃料が大幅に引き上げられたことを、残念な思いで伺いました。以下の理由から、今回の値上げについて、今一度ご検討いただきたくお願い申し上げます。

従来の賃料から200%もの値上げは、ベルリンの事業用物件の賃料相場が急速に上昇していることが背景にあるのかもしれませんが、しかし、新型コロナウイルスによる経済危機のさなかであって、とりわけアーティストや自営業者に対して、このような値上げを行うことは、連帯の精神に欠け、時代の状況にもそぐわないものと考えます。文化活動に携わる人々や自営業者は、平時でさえ十分な蓄えを確保することが難しく、現在、多くの人々が個人破産の危機に直面しています。また、この事業用物件が位置する地域は、商業的に特に収益性の高い場所ではありません。通りを歩く人は少なく、昼どきに多少の人通りがある程度で、散策を楽しめるような商店街也没有。私たちはこの建物に10年以上住んでいますが、この通りの店舗や飲食店の多くは、2年以上営業を続けることができませんでした。私たち自身もその多くの店主と知り合ってきましたが、この通りを利用する人の大半は近隣住民です。

アーティスト・コレクティブ「SHOXXXXBOXXX」は、この地域にとって貴重な文化的存在です。定期的に開催される小規模なコンサートや展覧会などの地域イベントは、近隣住民が集い、新たな交流を生み、地域を活気づける場となっています。もしこの店舗が閉鎖されることになれば、私たち全員にとって大きな損失となるでしょう。また、空き店舗になったとしても、誰にとっても利益にはなりません。

以上の点に加え、現在の経済危機も踏まえ、今回の賃料値上げについて、今一度ご再考くださいますようお願い申し上げます。

ご検討のほど、何卒よろしく願いいたします。

敬具

(レームブルック通り15番地の住人)



shou aka SHOXXX
Atelier - Studio
Lehmbruckstr. 15
10245 Berlin

Berlin, den 26. März 2020

Bestätigung für die kulturelle Einrichtung in der Lehmbruckstraße 15 in 10245 Berlin

Sehr geehrte Damen und Herren,

*hiermit bestätigen wir, dass das Atelier-Studio „SHOXXXBOXXX“
in der Lehmbruckstr. 15 in 10245 Berlin im Kiez eine einmalige und
außergewöhnliche Einrichtung darstellt.*

*Ein besonderer Anziehungspunkt ist die Ausstellung und das Angebot
mit den farbenfrohen exklusiven Puppen und Dekorationsartikeln und
Illustrationen von Shou (Akiko Matuuura).*

*Die künstlerischen Projekte und Veranstaltungen wie „Puppe’n Mucke“
in den selbst gestalteten einmaligen Kostümen begeistert das Publikum
und verbreitet gute Laune und Vergnügen für Jung und Alt, was wir
durch Auftritte im lokalen Kulturverein „KulturRaum Zwingli-Kirche e.V.“
im Rahmen des KulturFestivals am Rudolfplatz bestätigen können.*

*Mit freundlichen Grüßen
KulturRaum Zwingli-Kirche e.V.*

gez. Peter H. Rose
Vorsitzender

gez. Dr. Wolfgang Friebe
Stellv. Vorsitzender



ベルリン 10245、レームブルック通り15番地にある 文化施設に関する確認書

拝啓

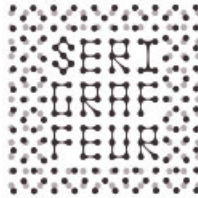
ここに、レームブルック通り15番地にあるアトリエ・スタジオ
「SHOXXXBOXXX」が、この地域において唯一無二の、他に類を見ない
施設であることを証明いたします。

特に注目すべきは、Shou (Akiko Matsuura) による、色鮮やかで独
創的な人形や装飾品、イラストなどの作品群です。

また、「Puppe’n Mucke」をはじめとする芸術プロジェクトやイベ
ントでは、彼女がデザインしたユニークな衣装をまとった出演者たちが
観客を魅了し、子どもから大人まで、幅広い世代に喜びと楽しさを届け
ています。私たちは、ルドルフ広場で開催された文化祭の一環として、
地域の文化団体「KulturRaum Zwingli-Kirche e.V.」で行われた公演を
通じて、そのことを実際に確認しています。

敬具

KulturRaum Zwingli-Kirche e.V.
(SHOXXXBOXXXの近くにある教会型文化施設)



EMPFEHLUNGSSCHREIBEN

am 31/03/2020

Tom Singier
Dirschauer Str. 1 10245 Berlin
T : +49 (0) 1788074925
tom.singier@serigrafteur.com
www.serigrafteur.com

Guten Tag,

Hiermit möchte ich meine Unterstützung zu den Erhalt vom Projektraum SHOXXXBOXXX in die Lehmbruckstrasse bekannt geben.

Als lokaler Mitmacher friedrichshainer Kunstszene folge ich schon seit Jahren das Streben und verdiente Erfolg von Frau Matsuura. Unsere Wege dürften sich auch mehrmals kreuzen durch unterschiedliche Projekte; ich dürfte zum Beispiel bei SHOXXXBOXXX Ausstellen unter mein damaligen Künstlerna Daeye. Sie hilf mir damals auch meine Arbeiten in Osaka auszustellen. Als ich 2012 eigene Räume in die Dirschauer Strasse öffnete haben wir dann als Zeichen unser Wunsch nach ein solidarisch lebendiger und vernetzten Kiez die JAPARADE damals organisiert; ein Strassenumzug zwischen zwei Teile Friedrichshains über die Modersohnbrücke, eine Symbolischer Weg der den eher ruhigen Rudolfskiez zum wimmelder Boxhagener Platz vereinte. Diese Zusammenarbeit läuft bis Heute noch, als ich regelmässig Künstler durch Sie entdeckte. Ich arbeite nun auch regelmässig mit den Fotograf Vincent Roux.

In der Hoffnung dass mein Brief bei der Sache helfen kann, Herzlicht,

Tom Singier, Berlin am 31 März 2020

こんにちは、

この場をお借りして、レームブルック通りにあるプロジェクトスペース「SHOXXXBOXXX」の存続に対する私の支持を表明させていただきます。

フリードリヒスハインのアートシーンに地元として関わる者として、私は長年にわたり松浦さんの取り組みと、その努力にふさわしい成功を見守ってきました。さまざまなプロジェクトを通じて、私たちの道は何度か交わってきました。例えば、私はかつてのアーティスト名「Daeye」として、SHOXXXBOXXXで展示を行ったこともあります。当時、松浦さんは私が大阪で作品を展示できるよう手助けもしてくださいました。2012年に私がディルシャウアー通りに自身のスペースを開設した際、連帯感にあふれ、活気に満ちたネットワークのある地域社会を築きたいという願いを象徴するものとして、私たちは「JAPARADE」を企画しました。これは、フリードリヒスハインの2つの地区を結ぶ、モダーゾーン橋を渡るストリートパレードであり、比較的静かなルドルフ地区と、活気あふれるボクサーハーゲン広場を結びつける象徴的な道程でした。

この協力関係は現在も続いており、私はあなたを通じて定期的にアーティストを発見しています。また、現在は写真家のヴァンサン・ルーとも定期的に仕事をしています。

この手紙が、今回の件に少しでも役立つことを願っています。心を込めて。

Tom Singier

ベルリン、2020年3月31日

(SHOXXXBOXXXの友人であり、協力ギャラリーのオーナー)

街の声 ベルリンは何と言っているのか？

Klaus Lederer (クラウス・レデラー)

ベルリン市文化担当上院議員 / 市長代理



” 芸術制作のためのスペースを確保することは、困難を伴う課題である。物件を探し出し、各分野の代表者たちと協力して、そのスペースを整備するための基準を策定しなければならない。

“

” 現在、ベルリンの街の至るところで、アーティストが自ら作品を制作するための場所が失われる危機に直面しています。

そもそも、制作環境を維持することも芸術活動を支える重要な条件のひとつです。例えば、毎月のように家賃が値上がりすれば、いずれ制作を続ける余裕がなくなってしまいます。家賃の値上げ分にお金を取られ、作品をつくるための材料や道具を購入する資金が残らなくなってしまうからです。

“

” 7人のうち5人は、文化施設を目当てにベルリンを訪れています。

“

Monika Grütters
(モニカ・グリュッターズ)
文化担当大臣

” 文化は、景気の良いときだけ楽しむ贅沢品ではありません。私たちが生きていくうえで欠かせないものであり、人間らしさの表れでもあるのです。

2020年3月25日

“

Jan Kage (aka Yaneq) (ヤン・カーゲ aka ヤネック)

アートスペース「Schau Fenster」および「KanyaKage」の運営者であり、FluxFMの番組「Radio Arty」の司会者。

<http://www.dasarty.com>

<http://www.kanyakage.com>



<https://www.fluxfm.de/yaneq/> Foto: Hadley Hudson

Jim Avignon (ジム・アヴィニョン)

Jim Avignonは、1980年代から活動しているドイツ / ベルリン出身のポップアート作家である。画家、ミュージシャン、イラストレーター、コンセプチュアル・アーティストとして活動している。

<http://www.jimavignon.com>



(c) Jim Avignon

”

芸術や音楽の創作において、空間の存在は不可欠です。創作や実験が行え、アーティストたちが出会い、日常的に交流できる空間です。

ヨハネス・マルクスとShou (通称SHOXXX) は、ベルリン・フリードリヒスハインのレームブルック通り15番地にある「SHOXXXBOXXX」を、まさにこの目的のために活用している。彼らの作品はベルリンだけでなく、国内外でも高く評価されている。さらに、彼らは不定期に親交のあるアーティストたちの展覧会を開催し、自分たち自身を超えたつながりを生み出している。

ベルリンには、こうした空間が必要だ。ベルリンには文化が必要だ。

“

”

ベルリンは、活気あふれる魅力的なサブカルチャーシーンが世界に新たな刺激を発信する街として、国際的に知られています。それを支えているのは、何よりもSHOXXXBOXXXのような場所です。

私もこれまで何度かイベントに足を運び、そこで披露される素晴らしいアイデアや展覧会に、いつも感銘を受けてきました。そして何より、世界各地から集まった人々が自然に出会い、初めて訪れたにもかかわらず、すぐに自分の居場所のように感じられる。そんな空間であることにも、いつも心を打たれています。

もしこの場所が閉鎖されることになれば、ベルリンにとって大きな損失となるでしょう。

“

まとめ・おわりに

これがSHOXXXBOXXXのこれまでの歩みです。妊娠・出産と育児休暇のため、残念ながらここ2年ほどは活動が少なくなっていました。しかし、今また活動を再開し、SHOXXXBOXXXをさらに発展させていく意欲に満ちています。

私はこれまで家賃を滞納したことはなく、借りているスペースの手入れも大切にしてきました。壁の隅々まで自分たちで補修し、塗装してきたので、家中どこもよく把握しています。幸いなことに、SHOXXXBOXXXは私たちや友人、活動仲間だけでなく、建物の住人や近隣の方々にも親しまれています。レームブルック通り15番地の建物にとっても、価値を高める存在として受け止められています。

また、現在の新型コロナウイルスによる危機的状況についても、ぜひご考慮いただきたいと思います。私たちのような自営業者にとって、この危機は大きな打撃となっており、誰もが今後の経済状況に不安を抱えています。

どうか今回の家賃値上げについて、今一度ご再考いただけますよう、心よりお願い申し上げます。前向きなお返事をいただければ、私だけでなく、多くの人々にとっても大きな喜びとなります。

ご不明な点がございましたら、メールまたはお電話にて、いつでもお気軽にお問い合わせください。

レームブルック通りより、心を込めて。

松浦 晶子（ショウ）

連絡先

Akiko Matsuura (aka Shou)

(atelier) Lehmbruckstr. 15, 10245 Berlin

mobil : +49 (0)157 777 12364

e-mail : shou@shoctopus.net

Special thanks to

テキスト編集: **Eric Boden**

アドバイス: **Mathias Backhaus**
Roman Piwetzki
Mieterberatung asum GmbH
NaGe-Netz
Götz Füsser
Werner Kernebeck
David Braithwaite

翻訳 (FR) : **Vincent Roux**
Tom Singier

コンセプト&レイアウト: **Shou**